

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	○チームでつくる介護計画とモニタリング 利用者の小さな変化を見逃さない支援に努めていることに合わせ、毎月のモニタリングと季節の変わり目に合わせた3ヶ月ごとの計画の見直す。	事あるごとに職員間で話し合っているため、そこでのモニタリング、アセスメントの記録をしっかりと残す。また、ご本人の状態の変化や介護内容に変化があった時には当然計画を見直す。季節の変わり目など環境に変化があった場合にも計画を見直す。	モニタリング、アセスメント、プランニングの流れをしっかりと実践する。職員間でその都度話し合ったことを支援記録には記載しているため、そこからモニタリング、アセスメントに当てはまる内容をピックアップして記録する。	1ヶ月
2	35	○災害対策 自主訓練実施の記録が年間1回しか残っていない。自主訓練の回数も増やしその都度課題を見つけスムーズな対応ができるようにする。	様々な自然災害を想定した避難訓練の計画と実施を確実に実行。訓練の反省会を行い課題を見つけ、訓練を行うごとにスムーズで確実な避難を身につける。	年間2回は消防署の立会いの下に訓練を行っているためその記録を残す。様々な自然災害が増えているため色々な災害を想定した自主訓練を行う。	2ヶ月
3	36	○一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保 特に異性介助になる場合などには、職員側の流れでの介護ではなく、同意を得る声掛けを行った方が良い。	同性介助が望ましい場面では、職員側のペースで介助を進めるのではなく、了承を得てから介助を行う。	排泄、入浴、更衣など同性介助が望ましい場面では、職員側のペースで介助を進めるのではなく、自分が介助をしても良いか確認し了承を得てから介助を行う。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。